

春田産業、日本圧延工業、パナソニック

アルミ水平リサイクル開始

物流効率・環境負荷低減に寄与

非鉄製品問屋の春田産業（本社・大阪市東成区、社長・北村裕一氏）はこのほど、日本圧延工業とパナソニックと共同で、アルミスクラップを対象とした水平リサイクルの共同事業を開始した。春田産業は製品納入とスクラップ回収を担い、年間回収量は40トを見込む。	同事業は、これまで外部業者へ売却していたスクラップを、同一製品群の原料として再利用する循環型の取り組みだ。春田産業が日本圧延工業製の純アルミ系コイル材を、パナソニックの照明器具製造拠点へ納入する際、加工工程で発生するアルミスクラップを自社	トラックで回収。日本圧延工業へと運ぶ。これによりCO ₂ 排出量を大幅に削減、回収輸送の省力化・コスト削減につながる。	2025年2月から試験的に回収を開始し、スクラップリターの運用スキームを構築。現場では異種金属の混入を防ぐための分別ルールを設け、安定回収に向けた管理に取り組んだ。また、春田産業は自社倉庫や自動ラック設備を活用できる体制を整え、日本圧延工業もスクラップ原料の活用に注力。今回の共同事業開始に至った。	春田産業の北村社長は「流通問屋とメーカー
--	---	--	---	----------------------

「協業による水平リサイクルは先進的な取り組みだ。当社が持つ原料取り扱いのノウハウや設備、輸送力を生かして、互いに協力することで形にできた」とし、「製品とスクラップの両方を扱えることが我々流通問屋の強み。実績を積み、今後は他拠点での回収も視野に入

「今回の取り組みは、パナソニックグループが推進する調達先連携型の「温室効果ガス削減」「循環型ものづくり」などの施策が「E COVC」の一環として評価され、春田産業と日本圧延工業は25年度E COVC奨励賞を受賞している。

